

## 第1回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 「情報化への貢献」部門

【日本鉄道賞】：東日本旅客鉄道株式会社

（選考理由）

ＩＣカードを活用した出改札システム「Ｓｕｉｃａ（スイカ）」を導入し、切符購入の省略化、チャージ（入金）による繰り返し使用、乗り越し運賃の改札機における自動精算等、利用者に対して非常に高い利便性を提供することを実現した。

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：小田急電鉄株式会社

（選考理由）

忘れ物を全駅で即座に検索できるシステムやインターネット接続携帯電話等から特急券を予約・購入しチケットレスで特急に乗車できるシステムを初めて導入し、利用者利便の向上に貢献した。

### 「地方鉄道における活性化への貢献」部門

【日本鉄道賞】：岡山電気軌道株式会社

（選考理由）

超低床式路面電車「ＭＯＭＯ」の導入と併せて、情報技術を活用した電車運行情報の提供、バリアフリー化の推進等を一体的に行い、さらに市民団体とも連携しつつ街づくりの情報等を発信するなど地域の発展に尽くした。

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：津軽鉄道株式会社

（選考理由）

津軽の冬の風物詩として定着しているストーブ列車をはじめとして、季節毎に様々な趣向を凝らした列車の運行等を通じて利用の確保に努め、地方鉄道として地域に定着するよう長年にわたり努力を続けてきた。

### 「環境対策への貢献」部門

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】：日本貨物鉄道株式会社及び三岐鉄道株式会社

（選考理由）

中部新国際空港の建設に当たり、埋立土砂の一部について鉄道輸送を活用することによりモーダルシフトを実施し、ＣＯ２、ＮＯｘ等の削減に寄与した。

## 第2回「日本鉄道賞」の受賞者について

### ①「利用者利便の向上への貢献」部門

#### 【日本鉄道賞】

##### ・ 阪急電鉄株式会社

「高齢者、障害者を含めたすべての人に優しい「阪急伊丹駅」の実現」

(選考理由)

高齢者・身体障害者等を含む利用者の意見をできる限り取り入れ、エレベーターの整備による段差解消や音声案内等の各種案内設備等も含めた総合的な対策を行い、バリアフリー化された鉄道駅のモデルを作り上げた。

#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

##### ・ 横浜市交通局

「地下鉄駅におけるバリアフリーボランティア」

(選考理由)

エレベーターの設置等によるハード面の取組みだけでなく、地下鉄駅において高齢者・身体障害者等の移動を支援するボランティアを育成し、その活動によりバリアフリーをさらに一歩進めるというソフト面での取組みを行った。

##### ・ 広島電鉄株式会社

「他の鉄道や旅客船等他の交通モードとの乗換え利便の向上」

(選考理由)

これまで離れていた電車停留場を鉄道駅前や旅客船ターミナル前に移設するとともに、併せて駅舎を覆う大型のドーム型屋根を設置する等の取組みにより、鉄道や旅客船等との乗換え利便の向上を図り、地域のランドマークを作り出した。

②「地方の活性化への貢献」部門

【日本鉄道賞】

・三陸鉄道株式会社

「イベント車両の活用等による三陸沿岸の観光振興への貢献」

(選考理由)

観光列車やイベント車両を運行・PRすることで県の内外から観光客を誘致するとともに、地元の行事とも連携した取組みにより、地方鉄道として地域の貴重な交通機関として定着する努力を続けてきた。

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

・かしてつ応援団（別名：鹿島鉄道沿線中高生徒会連絡会）

「地元沿線の中高生徒会による鹿島鉄道存続へ向けた取組み」

(選考理由)

少子・高齢化等による利用者数の減少のため経営困難になった鹿島鉄道の存続に向けて、沿線の中高校生が連携し署名活動等各種の取組みを実施する等、地域の足としての鹿島鉄道の存続に貢献した。

・四国旅客鉄道株式会社

「四国独特の自然、歴史、文化等と連携した四国の観光活性化を図るための取組み」

(選考理由)

高松駅の再整備及びこれに伴う輸送サービスの改善、瀬戸大橋や四万十川、八十八箇所霊場巡礼や讃岐うどん等四国の自然、歴史、文化等と結びついた商品開発・情報発信により、観光の活性化と地域の振興に積極的に取り組んできた。

### 第3回「日本鉄道賞」の受賞者について

#### ①「地域活性化への貢献」部門

##### 【日本鉄道賞】

- ・ 錦川鉄道株式会社（山口県玖珂郡錦町）

「廃線の旧国鉄岩日北線軌道敷跡地を走る『とことこトレイン』が地域と鉄道を支える」

（選考理由）

未利用となっていた旧国鉄線跡地を、地域と連携した創意工夫によって新たな観光資源として有効活用することにより、鉄道の利用促進を通じた鉄道事業の経営改善に取り組むとともに、地域全体の活性化にも貢献した。



##### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

- ・ 北越急行株式会社（新潟県南魚沼郡六日町）

「シアタートレイン『ゆめぞら号』を活用した鉄道の魅力向上への取り組み並びに沿線市町村と首都圏との交流事業の展開」

（選考理由）

鉄道旅行の楽しさを演出するユニークなサービスを提供することによりローカル列車の魅力向上を図るとともに、鉄道沿線各地域と首都圏との交流事業に積極的に取り組むことにより、鉄道の利用促進や地域の活性化に成果を上げてきた。





・財団法人鉄道総合技術研究所

「地域活性化に資する鉄軌道事業者への技術支援（レールアドバイザー制度、現地調査サービス）」

（選考理由）

豊富な技術的知見を有する人材を有効活用し、経営環境の厳しい鉄軌道事業者の抱える技術的課題に対する有益な技術支援を行うことにより、地域の足として重要な役割を担う鉄軌道の安定・安全輸送のための技術レベルの維持に資する体制を築き上げた。



②「便利で魅力ある鉄道をめざして」部門

【日本鉄道賞】

・九州旅客鉄道株式会社、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、鉄道情報システム株式会社

「新八代駅での同一ホーム対面乗換え（新幹線－在来線特急）の実現と切符1枚の旅」

（選考理由）

全国で初めて新幹線と在来線の同一ホーム対面乗換えを実現したほか、乗換え時の座席位置にも配慮した乗車券・特急券切符の1枚化や旅客誘導案内の充実など、九州新幹線の部分開業に伴う乗換えの不便の解消に向けた取り組みを行った。



【表彰選考委員会特別賞】

・ 横浜高速鉄道株式会社

「横浜にふさわしい地域財産となる個性とアメニティあふれる駅づくり」

(選考理由)

駅を公共空間と位置付け、オープンスペースを積極的に確保し、各地区の特性に合わせてアーチ、ドーム構造、吹き抜け等を取り入れるなど、従来の地下鉄駅にはない地域の財産にふさわしい個性的な駅を作り上げた。



・ 日本貨物鉄道株式会社

「世界初の電車型特急コンテナ列車でモーダルシフトを実現」

(選考理由)

貨物列車としては初めてとなる電車型の高性能列車を開発、導入することなどにより、従来トラックで行われていた東京～大阪間の宅配便輸送の鉄道へのシフトを実現し、環境負荷の小さい物流体系の構築に取り組んだ。



## 第4回「日本鉄道賞」の受賞者について

### ①「鉄道の利用促進と利便性向上、より環境にやさしい交通の実現に向けて」部門

#### 【日本鉄道賞】

社団法人鉄道貨物協会（東京都千代田区）

「エコレールマーク」

（選考理由）

積極的に鉄道貨物輸送に取り組んでいる商品や企業をエコレールマーク商品・企業として認定・表示する制度を創設し、これまで一般消費者等への浸透が課題とされていた“環境にやさしい鉄道貨物輸送”へのモーダルシフトの取り組みに、消費者と企業が一体的に参加する仕組みを作り上げた。



#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

・ 広島電鉄株式会社（広島県広島市）

「国産超低床車両の導入による路面電車の利便向上」

（選考理由）

従来使用してきた外国製の超低床車両に関する利用者の要望・意見などを積極的に取り入れ、車両メーカー等と連携して我が国初の完全超低床車両を開発・導入することによって、より利便性が高く、街のシンボルともなる新しい路面電車の実現に取り組んだ。



## ②「地域活性化に貢献する個性あふれる駅づくり」部門

### 【日本鉄道賞】

- ・井原鉄道株式会社（岡山県井原市）

「地域主導による駅利用の開発と地域交流事業の促進」

（選考理由）

厳しい経営環境にある鉄道の維持を図るため、地域住民や沿線自治体と一体となって、地域の交流拠点としての駅の多目的利用や駅のモニュメントの設置などのさまざまな取り組みを継続することにより、地域住民のマイレール意識の高揚、鉄道の利用促進などに努めてきた。



### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

- ・三重県いなべ市

「地域密着型の新しい“駅”」

（選考理由）

沿線の地方公共団体が主体となって、駐車場等を兼ね備えた駅前広場やアクセス道路の整備、地域の交流・物販施設の設置など、利用しやすい駅づくりや鉄道の利用促進の取り組みを実践し、鉄道の維持・発展を通じた地域の活性化に積極的に取り組んできた。





【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

・会津鉄道株式会社（福島県会津若松市）

「自然の調和と歴史への誘い」

（選考理由）

沿線地方公共団体と連携しながら、沿線の観光資源を積極的に取り入れ、まちのシンボルとしても注目される特色ある魅力的な駅舎を整備し、観光需要の創出による鉄道の利用促進、地域の活性化に取り組んできた。



### ③表彰選考委員会による特別表彰

今回の第4回「日本鉄道賞」では、テーマ部門ごとの表彰とは別に、応募案件の中から、以下の2件について、今後の鉄道の一つのモデルとなりうる取り組みとして、表彰選考委員会による特別表彰を行うこととなりました。

#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会プロジェクト賞】

- ・首都圏新都市鉄道株式会社（東京都台東区）

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（神奈川県横浜市）

「全てのお客さまに、やさしさと、心地よさ

～安全性と快適性が貫かれた『つくばエクスプレス』をめざして～」

（選考理由）

自動列車運転装置（ATO）や可動式ホーム柵の整備などを通じた高い安全性を追求するとともに、すべての人に快適なユニバーサルデザインの考え方を取り入れた最新の設備の整備等によって、今後のモデルとなりうる新しい鉄道の姿を提示した。



#### 【日本鉄道賞表彰選考委員会技術賞】

- ・東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「雪に負けない鉄道輸送 ～雪国秋田の現場力が実現！～」

（選考理由）

雪国における冬季の鉄道の安定輸送の確立に向けて、従来とは全く異なる発想に基づく分岐器除雪装置（空気噴射式除雪装置「エアジェット」）を開発・導入し、冬季のポイント不転換による輸送障害発生の抑制に努め、冬季の鉄道利用促進のための基礎を作った。



## 第5回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

#### ●富山ライトレール株式会社(富山県富山市)

「地域に密着した安全・安心・快適で環境にやさしい公共交通をめざして」

(選考理由)

我が国初の本格的なシステムとしてのLRTの導入事例である。地元自治体によるまちづくり構想の中で公共交通のあり方を明確に位置づけており、フィーダーバスの運行をはじめ、周辺地域と一体となった整備を進めている。さらに、基金の設置をはじめとした住民参加を促進する仕組みも併せて整備されている。今後の地方都市圏におけるLRT整備のあり方の代表事例となりうる取り組みである。



街の中を走るポートラム

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

#### ①和歌山電鐵株式会社(和歌山県和歌山市)

「地方鉄軌道再生のモデルケースとなれるよう、日本一心豊かなローカル線を目指します。」

(選考理由)

運営していた鉄道事業者により廃止の届出が出された貴志川線について、地元住民が熱心な存続活動を行い、これを受けた地元自治体が新たな事業者が参入しうる支援策を打ち出し、一般公募を実施した。この公募に応じた県外の鉄道事業者は、地元扎根した事業運営を目指し運行を引き継いだ。地方鉄道の再チャレンジのためモデルとなる取り組みである。



シンボル車両「いちご電車」



## ②山形鉄道株式会社(山形県長井市)

「1. 沿線住民や高校生が取り組む『マイレール』の確保

2. 地方鉄道を活用し沿線地域の活性化を図る」

(選考理由)

厳しい経営環境にある鉄道事業を地域が「マイレール」として細やかな支援を長年継続した事例である。住民や地元企業による支援、地元高校生による手作り駅舎の建設、地元がロケ地となった映画の特装列車の運行など地元と連携した様々な沿線活性化のための取り組みを行うとともに、車両内における無線LANによるインターネット接続サービスなど新しい利用促進策も実施している。



映画特装列車

[ 表彰選考委員会による特別表彰 ]

【日本鉄道賞表彰選考委員会ユニバーサルデザイン賞】

## ● 東京急行電鉄株式会社(東京都渋谷区)

「『すべてのお客様が、利用しやすい鉄道』のために。」

(選考理由)

世田谷線において、ハード・ソフトの両面から、全ての人に快適で利用しやすい鉄道サービスを提供している事例である。車両の更新や停留所の改良、ICカードの導入等のハード面のみならず、同線の乗務員・案内係全員がサービス介助士資格を取得する等、更に進んだサービスの提供に努めている。



サービス介助士資格を有した職員

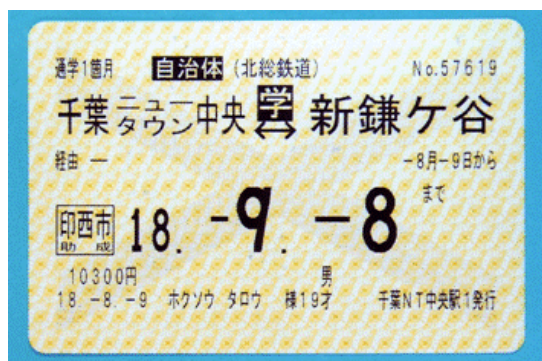
## 【日本鉄道賞表彰選考委員会子育て支援賞】

### ●印西市、白井市、印旛村、本埜村、北総鉄道(株)

「子育て支援のため、通学定期運賃の25%を補助」

(選考理由)

沿線自治体が高校生以上の学生の通学定期運賃の一部を補助することで、沿線在住の子育て世帯の負担軽減を実現した首都圏における初の事例である。鉄道利用者が現実増加し、少子化社会における鉄道による子育て支援方策として高く評価された。



自治体補助通学定期券



買い求める学生たち

## 【日本鉄道賞表彰選考委員会技術賞】

### ●愛知高速交通株式会社(愛知県愛知郡長久手町)

「我が国初のリニアモーターカー『リニモ(東部丘陵線)』愛・地球博で大活躍」

(選考理由)

「リニモ」は、本格的な公共交通機関としては我が国初の営業運転を実現した常電導吸引型磁気浮上式システムによるリニアモーターカーである。愛知万博では来場者の輸送に貢献しただけでなく、リニモ自体がパビリオンの存在として、新たな技術の実用化事例に対する国民の理解と関心を深めた。



リニモ

## 第6回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

#### ◎ 東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社（愛知県名古屋市、大阪府大阪市）

「最新技術という、おもてなし。新しい新幹線 N700 系。」

（選考理由）

東京～新大阪間の時間短縮、車内静粛性のアップ等快適性向上による利用者利便の向上と省エネによる環境負荷軽減に極めて大きく貢献した。



N700 系車両

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

#### ◎ 日本貨物鉄道株式会社（東京都千代田区）

「紙と経験と人間の調整力」から「システムによる自動化」へ

（選考理由）

無線 I C タグや G P S の活用等による鉄道貨物の I T 化により、荷票を廃止する等鉄道貨物業務を大きく効率化するとともに、鉄道貨物のサービス向上による利用促進を通じて環境負荷低減にも特に大きく貢献した。



新システム IT-FRENS の登録画面

## 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

### ◎ 東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

#### 「世界初のハイブリッド鉄道車両の開発」

（選考理由）

世界で初めてハイブリッドディーゼル車両を実用化し、ディーゼル車両の環境負荷軽減に特に大きく貢献した。



ハイブリッド車両を採用したキハ E200 系車両

## 【表彰選考委員会による特別表彰】

### 〔新輸送サービス技術賞〕

### ◎ 北海道旅客鉄道株式会社（北海道札幌市）

#### 「先人達が挑戦してきた「線路と道路を走行可能な『夢の乗り物』」を世界初の技術で実現

（選考理由）

線路と道路をシームレスに結び、鉄道輸送のコストを低減するなど新たな輸送サービス技術の実現に貢献した。厳しい需要減少と財政の悪化に苦しむ地方において、鉄路を存続・活用する一つの方策を提案したものとして高く評価される。



DMV（線路走行時）



DMV（道路走行時）



〔日本鉄道賞表彰選考委員会地方鉄道活性化賞〕

◎ 阿武隈急行株式会社（福島県伊達市）

「時代やニーズは、潜在需要喚起の指南役」

（選考理由）

地域資源を活かした企画切符（花見山きっぷ）を販売し、定期外の利用者数対前年度比プラスを記録するなど地方鉄道活性化に貢献した。

また、駅に無料駐車場を整備して、パーク＆ライドを促進するなど、開業当初から地域とともに地道な利用促進努力を継続してきたことも評価される。



花見山きっぷ

〔日本鉄道賞表彰選考委員会鉄道利用促進賞〕

◎ 名古屋市交通局（愛知県名古屋市）

「大好評！！全国初の地下鉄環状運転と格安ドニチエコきっぷ

～公共交通の復権に向けて！！～」

（選考理由）

平成16年10月日本で初めての地下鉄の環状運転開始と格安（通常の3割引）の1日乗車券の販売により、平成18年度には万博のあった平成17年度を超える過去最高の乗車人員を記録するなど鉄道利用の促進に貢献した。



ドニチエコきっぷ

## 第7回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

PASMO協議会・関東ICカード相互利用協議会

「1. 電車も バスも PASMO 2. 首都圏を一枚で。」

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

(財)鉄道総合技術研究所 「車載の電池でもっと省エネ。架線がなくても快走！」

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

日本貨物鉄道㈱ 「貨物鉄道の革新（SEA & RAILサービス、  
PRANETS）」

### 【表彰選考委員会による特別表彰】

#### ①日本鉄道賞表彰選考委員会地方鉄道活性化賞

えちぜん鉄道㈱ 「地域とともに鉄道の再生にかける！ー地域共生型サービス  
企業を目指してー」

#### ②日本鉄道賞表彰選考委員会ネットワーキング賞

東京地下鉄㈱ 「副都心線開業！都心へのアクセスがますます便利に！」

#### ③日本鉄道賞表彰選考委員会駅・まち・水辺の一体計画賞

中之島高速鉄道㈱、京阪電気鉄道㈱ 「水都大阪のゲートステーションの構築」

#### ④日本鉄道賞表彰選考委員会ランドマークデザイン賞

四国旅客鉄道㈱ 「高知駅付近高架化開業 ー駅を覆う「くじらドーム」ー」

## 第8回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

西大阪高速鉄道(株)・阪神電気鉄道(株)

「神戸・難波・奈良、つながる。阪神なんば線開通！」

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

I G Rいわて銀河鉄道(株) 「鉄路は命を繋ぐ！ I G R地域医療ラインの挑戦」

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

(財)鉄道総合技術研究所 「揺れる前に、列車を止める！」

### 【表彰選考委員会による特別表彰】

#### ①日本鉄道賞表彰選考委員会 地方鉄道技術連携賞

東北鉄道協会 「中小鉄道事業者連携プロジェクト（「技術力共有化事業」と「相互送客事業」）～人・モノ・技術・知恵の共有による安全性の向上、技術の継承、利用の促進～」

#### ②日本鉄道賞表彰選考委員会 エコフレンドリー賞

パーク24(株) 「交通 I C パーク＆ライド（お気軽！お手軽！全自動、無人のパーク＆ライドサービス）」

#### ③日本鉄道賞表彰選考委員会 廃線文化観光賞

北九州市 「休止された貨物線を活用した観光トロッコ列車の運行」



## 第9回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

- ◎ 京成電鉄株式会社、成田高速鉄道アクセス株式会社、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（東京都墨田区、千葉県船橋市、神奈川県横浜市）  
「JAPAN SPEED 日本の空港アクセスを世界クラスへ」

（選考理由）

都心～成田空港間を最速36分と成田空港を身近にしたこと、新型スカイライナーによる最高時速160キロ運転の実施、快適性向上並びに多くの関係者調整を行い着工から4年数ヶ月という短期間での開業、さらに大幅な建設費の低減や貴重な鳥類の保護といった環境保全への取り組みなど、空港アクセスの改善のみならず、地元調整、工期短縮、工事費低減、自然環境配慮等の各種取り組みが評価されたものです。



成田スカイアクセス線と山本寛斎氏のデザインによる新型スカイライナー

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

- ◎ 富山市、富山地方鉄道株式会社（富山県富山市）  
「路面電車の環状運行で、中心市街地の活性化を目指す」

（選考理由）

地域公共交通活性化及び再生に関する法律の適用を受け、軌道事業における全国初の下分分離方式の採用により新たな軌道の整備を行い環状運行を開始しました。さらに、環状線運行用に新型低床車両を3編成導入するなど、賑わいの創出と公共交通の利便性向上に寄与し、中心市街地の活性化に取り組んだことが評価されたものです。



環状運行の概要と都市景観と調和したデザインの路面電車

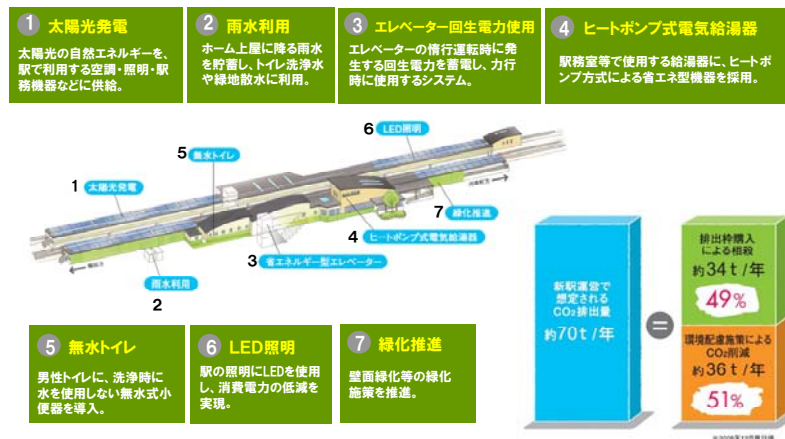
## 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

### ◎ 阪急電鉄株式会社（大阪府大阪市）

#### 「日本初の『カーボン・ニュートラル・ステーション』 エコで始まる新しい駅 阪急摂津市駅」

（選考理由）

摂津市駅は、地球温暖化対策モデル地区である南千里丘の玄関口として、自治体や駅周辺の開発者とも連携し、太陽光発電等の設備の導入やカーボンオフセットにより、駅運営に起因するCO<sub>2</sub>排出量を実質的にゼロにした日本で初めての駅です。利用者や地域に対し、駅看板やイベント列車によって環境啓発のメッセージを発信した点や、レンタサイクルを充実させた点も評価されました。



CO<sub>2</sub>排出量を削減する様々な施策

## 【表彰選考委員会による特別表彰】

### 〔日本鉄道賞表彰選考委員会 地方鉄道駅舎リノベーション賞〕

#### ◎ 北海道旅客鉄道株式会社、岩見沢レンガプロジェクト事務局（北海道札幌市、岩見沢市）

#### 「岩見沢複合駅舎を核とするまちづくり「らぶりっく！いわみざわ！」

（選考理由）

焼失した駅舎の再建にあたり、岩見沢複合駅舎建設をまちづくりの契機と捉え、各団体等との連携による各種イベントを開催しながら、2009年度「グッドデザイン大賞」を受賞するなど、市民連携によるまちづくりと市民協働による複合駅舎建設に取り組んだことが評価されたものです。



岩見沢駅を市民交流の拠点とし、各種イベントを開催

◎ 土佐くろしお鉄道株式会社、next stations [ネクストステーション

ズ] (高知県四万十市、東京都文京区)

「人を美しく魅せる駅～地方都市における駅の新しい在り方」

(選考理由)

改札口を撤去し駅内外の行き来を自由化、合わせて地場産ヒノキを積極的に活用した暖かみのある待合室を設置するなど、地方鉄道における駅づくりにおいて新しい感覚を取り入れながら、利用者の憩いの場や出会いの場となるよう中村駅を改装しました。さらに、駅構内の安心・安全性の向上や高齢者等にも分かりやすい案内表示とするなど、使いやすい駅へ改良したことが評価されたものです。



四万十ヒノキを積極的に活用した中村駅

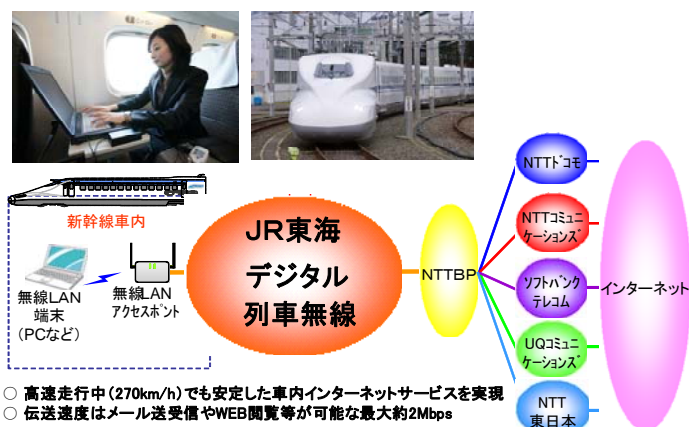
〔日本鉄道賞表彰選考委員会 旅客情報サービス向上賞〕

◎ 東海旅客鉄道株式会社 (愛知県名古屋市)

「東海道新幹線N700系、インターネット接続サービス開始。」

(選考理由)

平成21年3月より、東海道新幹線N700系車両において車内インターネット接続サービスを開始し、他社に先がけて時速270キロの高速走行中でも安定した車内インターネットサービスを実現し、快適な車内空間が提供されました。このサービスが今後も広く普及していくことの期待も合わせこれらの取り組みが評価されたものです。



N700系車両において公衆無線LANサービスを提供

〔日本鉄道賞表彰選考委員会 地域観光振興賞〕

◎ 嵯峨野観光鉄道株式会社（京都府京都市）

「廃線を活かして20年 ～新しいスタイルの観光資源を育むトロッコ列車～」  
(選考理由)

JR嵯峨野線（嵯峨嵐山～馬堀間）が新線により複線電化されて以降、廃線となった施設を活かし、新しいスタイルの観光鉄道事業を20年前から展開しています。現在では年間90万人を超える利用者がおり、地域観光振興の貢献とモミジなどの植樹による自然再生への取り組み等を積極的に進めてきたことが評価されたものです。



保津峡に沿った風光明媚な景観を有した旧線にトロッコ列車を走らせ、歴史と伝統の都の活性化に貢献

嵯峨野観光線の路線概要とトロッコ列車



## 第10回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

◎ 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 東日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社（神奈川県横浜市、東京都渋谷区、愛知県名古屋市、大阪府大阪市、福岡県福岡市）

「新幹線でつなげよう、日本！～新青森・鹿児島中央間全通～」

（選考理由）

昭和34年の東海道新幹線の着工以来52年の歳月を経て、昨年12月に東北新幹線が新青森まで開業し、本年3月に九州新幹線が全線開業したことにより、青森から鹿児島までが新幹線で結ばれました。世界最長の複線断面の陸上トンネルである八甲田トンネル（26.5km）等を高度な技術力により建設したこと、新型高速車両の開発導入、山陽・九州新幹線の直通運転開始などが大きく寄与し、大幅な所要時間の短縮と沿線地域の発展に大きく貢献したことが評価されたものです。

新青森から鹿児島中央まで新幹線が全通！



【主な取組内容】

- ・高度な技術による新幹線建設  
世界最長の複線断面陸上トンネル「八甲田トンネル」など
- ・新型高速車両の開発・導入  
東北新幹線「E5系」  
東海道・山陽・九州新幹線「N700系」
- ・山陽・九州新幹線の直通運転開始  
改良型「N700系」による直通運転
- ・新幹線と連携した地域活性化  
地元と連携した観光開発  
新幹線駅へのP&R駐車場の整備



◎ 東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

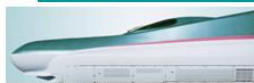
「国内最高速320km/h 走行へ向けて最先端の技術を結集し、最高峰のお客さまサービスを実現したE5系新幹線電車」

（選考理由）

車両の先頭形状をロングノーズタイプとした走行時の騒音低減、フルアクティブサスペンションと車体傾斜装置による快適性の向上、ブレーキシステムの改良等により、国内最高速となる320km/h運転を可能としました。併せて、新幹線では初めてのグレードとなるGranClass（グランクラス）を導入し利用者満足の向上を図ったことが評価されたものです。

走行性能と信頼性、環境性能、快適性のすべてを高いレベルで融合させた新世代の新幹線E5系

特別なゆとりとおもてなしを提供する  
新たなグレード「グランクラス」



ロングノーズ



低騒音ノーズグラブ



車体傾斜装置とフルアクティブサスペンション



高性能ブレーキシテム

GranClass

質感の高い素材や居心地のよい照明により、今までの鉄道車両にない上質で洗練された空間を実現しました。



## 【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

### ◎ 日本貨物鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「緊急石油列車が被災地の燃料不足解消に貢献！」

（選考理由）

本年3月の東日本大震災により東北地区の鉄道や製油所が大きな被害を受けたため、石油が大きく不足する事態となりました。このため、関係事業者の協力を得て、京浜地区から普段は運行しない日本海側の路線や磐越西線等を使って、盛岡や郡山にタンクローリー車に換算して約3千台分の石油を運び、被災地の復旧に貢献したことが評価されたものです。

**緊急石油列車が被災地の燃料不足解消に貢献**



### ◎ 東北鉄道協会、東日本旅客鉄道株式会社東北工事事務所、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、株式会社ジェイアール総研エンジニアリング（宮城県仙台市、宮城県仙台市、神奈川県横浜市、東京都国分寺市）

「「よみがえる鉄路（東日本大震災からの復旧・復興）」～東北の中小鉄道事業者等を支えた鉄道技術者集団と東北ローカル線復興支援キャンペーン～」

（選考理由）

本年3月の東日本大震災により大きな被害を受けた中小鉄道事業者等に対して、高度な鉄道技術を有するJR東日本東北工事事務所、鉄道・運輸機構、ジェイアール総研エンジニアリングが、震災直後から現地入りし、被災状況の把握や復旧工法等を指導し、早期復旧・経費の削減等が図られました。また、東北鉄道協会は、中小鉄道事業者の復旧・復興支援イベントを開催し、沿線の被災者を勇気づけるとともに、ローカル鉄道の意義、魅力を多くの地域住民等に訴えたことが評価されたものです。三陸鉄道など未だ復旧途上の鉄道もありますが、一日も早い復旧・復興を心から願う気持ちも込めて、特別賞に選考されました。





## 【表彰選考委員会による特別表彰】

〔日本鉄道賞表彰選考委員会 えきまちプロデュース賞〕

◎ 西日本旅客鉄道株式会社（大阪府大阪市）

「『大阪駅が“まち”になる。OSAKA STATION CITY』」

（選考理由）

本年5月、大阪駅北地区の開発に先駆け、関西・大阪の玄関口として「OSAKA STATION CITY」という名の新しい“まち”が誕生しました。開発にあたり、「大阪駅が“まち”になる」をコンセプトに、憩いの場となる広場や回遊性を高める通路の整備、コンコースの拡幅やバリアフリー施設の増設等を行い、駅の利便性や快適性を向上させるとともに、地球環境への取り組みを充実させ、南北双方の駅ビルを新たに開発するなど、関西に駅を中心とした新たな賑わいを創出させたことが評価されたものです。



〔日本鉄道賞表彰選考委員会 ローカル線客招きアイデア賞〕

◎ 和歌山電鐵株式会社・貴志川線の未来をつくる会（和歌山県和歌山市）

「『日本一心豊かなローカル線』になるため、開業年度から、熱意と創意工夫で、地域のシンボルとなるよう、多彩なイベント等を開催し、地域と一体となった運営を続けています。」

（選考理由）

平成18年4月に南海電鉄から引き継いだ貴志川線について、継続的に地元住民や自治体、学校、商工会等とともに利用促進策について検討し、動物駅長の先駆けとなる「たま駅長」の任命や、「おもちゃ電車」を始めとする地域のシンボルとなる車両を多数導入、また、年間70回にも及ぶ多彩なイベントの実施など、地域と一体となり、様々なアイデアにより集客に努め、鉄道運営を続けていることが評価されたものです。





〔日本鉄道賞表彰選考委員会 路面電車活性化賞〕

◎ 熊本市交通局（熊本県熊本市）

「利用しやすい市電を目指して（九州新幹線全線開業に向けての取組み）」

（選考理由）

本年3月の九州新幹線全線開業に向けて、道路中央にある軌道を歩道側に寄せる「軌道のサイドリザベーション化」を全国で初めて本格的に実施するとともに、JR新水前寺駅との乗り継ぎ円滑化、路面電車優先信号システムの導入、軌道敷の緑化、市電運行系統の名称の変更など、利用しやすくわかりやすい市電を目指して、路線全体の活性化を実施したことが評価されたものです。



## 第 11 回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道賞】

#### ◎東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「国指定重要文化財である丸の内駅舎を創建当時の姿に復原します。」

（選考理由）

大正 3 年に竣工した東京駅丸の内駅舎は、わが国の駅舎建築の古典的金字塔であるのみならず、繊細さを併せ持ったそのシンメトリックな巨姿は世界でも屈指の「美駅」であった。今、太平洋戦争末期の東京大空襲によって破壊された 3 階部分や南北のドームが復原され、本来の姿を取り戻した丸の内駅舎は、首都東京に新たな魅力的名所をもたらすこととなった。この復原事業は、国民として誇りうる優れた文化的遺産を後世に引き継ぐという意味で極めて大きな意味をもつ。しかし、そればかりでなく、①最新の地盤工学や構造工学の技術を駆使して実現した耐震上の画期的改良、②現代社会にふさわしい空間と新たな機能の創造的付加、③駅舎の上空空間の利用権を周辺地域に移転売却することによって同事業を財務的に実行可能にした官民関係者の都市計画制度上の柔軟な工夫力、の諸点から見ても注目に値する。総合的に見て、まさにわが国鉄道の歴史に長く記録されるべき事業といえよう。よって、ここに第 11 回日本鉄道賞を授与するものである。



### 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別表彰 「鉄人」特別賞】

#### ◎原鉄道模型博物館（神奈川県横浜市）

「日本の鉄道の発祥の地、横浜に世界最大級の鉄道模型博物館オープン!!」

（選考理由）

世界的に著名な鉄道模型製作者・収集家である原信太郎氏の約 80 年にわたる膨大なコレクションは、国内外の鉄道の技術・文化・歴史を物語る重要な役目を果たしている。実際の鉄道走行機能を再現した精巧なジオラマ製作をはじめ、原氏の鉄道にかける情熱と生き様は感動的であり、展示に工夫を凝らしてそれを具現化したこの博物館は まさに“鉄人”による知的創造の情報発信地と言える。

今年 7 月に日本鉄道発祥の地・横浜に開館後、わずか 55 日で来場者数 10 万人を

達成した。鉄道愛好者や鉄道模型ファンの枠を超えて、一般にも鉄道の素晴らしさや楽しさを広く伝え、鉄道愛に共感を呼んでいる点に評価が集まり、今後の展開にも期待が寄せられる。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別表彰 「蘇ったレール」 特別賞】

◎NPO法人 神岡・町づくりネットワーク（岐阜県飛騨市）

「廃線を抱えた田舎町の遊びゴコロ「自転車とレールで風になる」レールマウンテンバイク・ガッタンゴー」

（選考理由）

レールマウンテンバイクが評価されたのはまず「独自性とユニークさ」だ。地元の人々のアイデアから生まれ、バイクは地元鉄工所・木工所の手作り。宣伝費はパンフレット代の8万円しかかけていないが、ユニークさが受けて利用者は年々増加し「黒字営業」を続けている。また「困難を乗り越えた」実績も大きい。鉄路を生かし新たな観光資源つまり地域の新たな財産を創出したことで全国から見学も相次いでいる。そして何より選考委員に共感を与えたのは「レールを残したい」という鉄道への深い思いが原点になったという点だ。全線廃止になった鉄道に係る取り組みが「鉄道賞」を受けるのは異例だが、これら先進性に加え、鉄道が地域の人たちにとっていかに重い存在であるかを訴えているからだ。





## 第12回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道大賞】

◎東京地下鉄株式会社、東武鉄道株式会社、西武鉄道株式会社、東京急行電鉄株式会社、横浜高速鉄道株式会社ならびに「メグ会」直通線隊ゴセンジャーの普及を楽しむ会

「首都圏民鉄5社7線による広域速達タイプの相互直通運転」

(選考理由)

本件は、世界にも全く類例を見ない民鉄5社による東上線、池袋線、西武有楽町線、有楽町線、副都心線、東横線並びにみなとみらい線、以上7線の広域的な相互直通運転を実現させることにより、首都圏の都市鉄道の利便性を大幅に向上させるとともに、首都圏内陸部と沿海部の心理的距離感を大幅に縮小し、地域間交流の活性化と首都圏全体のパワーアップに顕著に貢献したプロジェクトで、本年3月の渋谷駅切り替え工事をもって、延べ10数年をかけて完成されました。その際、第一に数多くの困難を事業者間の公益的視点に立った日本的協調によって見事に乗り越えたこと。第二に地下鉄における本格的な急行運転をわが国ではじめて実現し、速達性に極めて優れた広域的相互直通運転を実現したこと。第三に利便性向上と裏腹に生じがちなトラブル発生時における列車遅延拡大のリスクを、ハード面・ソフト面の数多くの工夫によって、最小限にとどめる努力を払ったこと。第四に世界的にも注目されるところの、わが国都市鉄道のお家芸とも言える従来の相互直通運転コンセプトを、質、量ともに大幅にグレードアップさせたこと。第五に市民団体などとも連携し本事業の一般国民へのアピールに多面的に努力したこと。以上の5点が特に高く評価されました。これより本件に対し平成25年度日本鉄道大賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「新たな旅世界の創出」特別賞】

◎九州旅客鉄道株式会社ならびに水戸岡鋭治氏

「高水準の鉄道デザインをベースとしたＪＲ九州における長年にわたる新たな旅世界の創出活動」

（選考理由）

ＪＲ九州は、発足当初より長年にわたり、水戸岡鋭治さんとともに、新幹線から通勤列車まで様々な列車や、あるいは駅空間などにおいても、一貫性と独自性に富んだ極めて高い水準の鉄道デザインの実現に努力し、鉄道の prestige の向上と新たな旅世界の創出、さらに九州の地域活性化とインバウンド旅客も含めた観光振興に顕著な成果をあげてきました。本年１０月営業開始される豪華寝台クルーズ列車「ななつ星 in 九州」を含めた一連の「デザイン＆ストーリー列車群」はその象徴的事例といえます。ＪＲ発足以来のこうした一連の活動は、わが国の鉄道サービスに、従来にはない全く新たな境地をもたらすとともに、世界的に見ても極めて大きなインパクトを与えてきました。以上を高く評価し、「新たな旅世界の創出」特別賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

「鉄道輸送の底力で被災地の復興に貢献」特別賞】

◎日本貨物鉄道株式会社

「鉄道コンテナ列車による東日本大震災発生ガレキの環境親和型長距離大量輸送の実現」

（選考理由）

鉄道輸送の特性は、長距離を安定的に大量に運べること。２０１１年の東日本大震災では大量の廃棄物が被災地復興の大きな妨げとなりました。そんな中、ＪＲ貨物は中越地震の際の災害廃棄物輸送の実績などから、広域処理の長距離輸送の８割を担うこととなりました。震災の年の１１月から現在に至るまで、受け入れ自治体は１都７県にまで拡大。これまでに運んだコンテナの数は３２，２７１個（１５４，００８トン。平成２５年８月末時点）。「一口に廃棄物と呼ばれているが、目の当たりにすると、それらは生活そのものであった」との事業者の言葉から、人々の思い出を運ぶことへの辛さや責任感が垣間見ることができました。１日も早い被災地の復興に向け、安心安全を誇る真っ白なコンテナは今日も走っています。鉄道輸送の

底力をいかに発揮し被災地の復興に大きく貢献した本件に、今後の災害廃棄物輸送への期待を込め「鉄道輸送の底力で被災地の復興に貢献」特別賞を授与します。



**【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「沿線ぐるみで鉄道再生」特別賞】**

**◎肥薩おれんじ鉄道株式会社**

**「沿線地域とともに作り上げた観光列車『おれんじ食堂』の快走」**

(選考理由)

肥薩おれんじ鉄道が3月から運行を始めた観光列車「おれんじ食堂」は、熊本県・新八代と鹿児島県・川内を3時間余で結ぶ間に、車窓から海沿いの風景を楽しみながら、沿線で採れる旬の食材を使った料理を味わえ、停車駅では特産品を買える趣向が評判を呼び、運輸収入が前年同月比20%近く増える人気となっています。これは、沿線の自治体、レストラン、農水産業者らが一丸となって、全国から、さらにアジアからも観光客を取り込もうと努力した結果で、阿久根駅が観光客を意識して来春に改修されるなど、波及効果も出ています。全国のローカル鉄道が沿線人口の減少に直面する中、鉄道再生の1つの方向性を示したものと高く評価し、「沿線ぐるみで鉄道再生」特別賞を授与します。





## 第13回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道大賞】

#### ◎東海旅客鉄道株式会社

「東海道新幹線の50年 ～「進化」へのたゆまぬ努力と着実な実績～」

(選考理由)

1964年東京オリンピックの年10月1日に世界初の高速鉄道として開業した東海道新幹線は本年で満50才を迎えました。その技術的・事業的成功は、高速鉄道による鉄道のルネサンスという新しいムーブメントを世界中にもたらししました。同時に、今日までに約56億人という膨大な数の乗客を運び、営業列車の脱線・衝突事故、乗車中の旅客の死傷事故いずれもゼロ、災害時なども含めた運行1列車あたりの平均遅延時分0.9分（平成25年度実績）という、他の高速鉄道の追随を全く許さない安全・安定輸送の実績を打ち立ててきました。この間、運行速度、輸送力、環境親和性、耐災害頑健性を顕著に向上させるとともに、構造物の長寿命化対策が進められ、現状に安住しない数々の「進化」が遂げられてきました。こうした「進化」へのたゆまぬ努力とそれに基づく着実な安全・安定輸送の「実績」とはまさに国民の誇りとするところであります。よって、ここに平成26年度日本鉄道大賞を授与します。

ありがとう！





【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「震災復興支援」特別賞】

◎三陸鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

「三陸の復興を願って！ 地域の協力が実を結んだ公共交通の早期復旧」

(選考理由)

東日本大震災により甚大な被害を受けた三陸鉄道と東日本旅客鉄道は、三陸沿岸を結ぶ公共交通の早期復旧を目指して取り組んできました。

このうち、三陸鉄道は今年4月に北リアス線、南リアス線の全線開通を果たしました。震災直後の一部区間の運転再開にはじまり、地元や国内外の協力を得て3年間で実現した全線開通は、一日も早く元の姿を取り戻したいという関係者の情熱が実を結んだものです。東日本旅客鉄道は、被害の大きかった気仙沼線と大船渡線について、BRTによる仮復旧という方法をとりました。地域の新たな街づくりに応じたルート設定や駅の新設、運行本数の増便など柔軟な運用が可能なBRTの特徴を生かして利便性の向上を図りました。

地元をはじめとする関係者の連携した取り組みが地域に寄与した貢献は高く評価できます。被災地には、いまなお震災の爪痕が残されています。今後も困難を乗り越え、鉄道事業者として復興の力となってくれるよう期待も込めて、特別賞を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞】

「『鉄道×ヒーロー』で親子が鉄道をもっと好きになる！」特別賞】

◎株式会社テレビ朝日・東映株式会社・株式会社東映エージェンシー

「烈車戦隊トッキュウジャー」

(選考理由)

本件は、テレビ朝日系で 40 年続いているスーパー戦隊シリーズですが、今年初めて鉄道をモチーフとして制作されたテレビ番組です。幅広い方に鉄道に親しみ、その魅力に触れて頂くことが本賞の主旨であることから、次世代の子どもたちに向けたこうした発信は、未来の鉄道ファンを作る上でも重要だと考えます。番組では、鉄道事業者とのコラボレーションも見られ、全国の列車 41 社、66 種(平成 26 年 9 月末時点)を紹介。また、この夏、会社の枠を超えて複数の事業者が連携したスタンプラリーが実施されるなど、様々な波及効果も生んでいるようです。「ホームでは白線の内側に下がらなければいけない」というマナーも番組でさり気なく盛り込まれ、親子で鉄道について考える良い機会を作っていると思われます。次世代に対する番組制作を高く評価し、本件に特別賞を授与します。



## 第14回「日本鉄道賞」の受賞者について

### 【日本鉄道大賞】

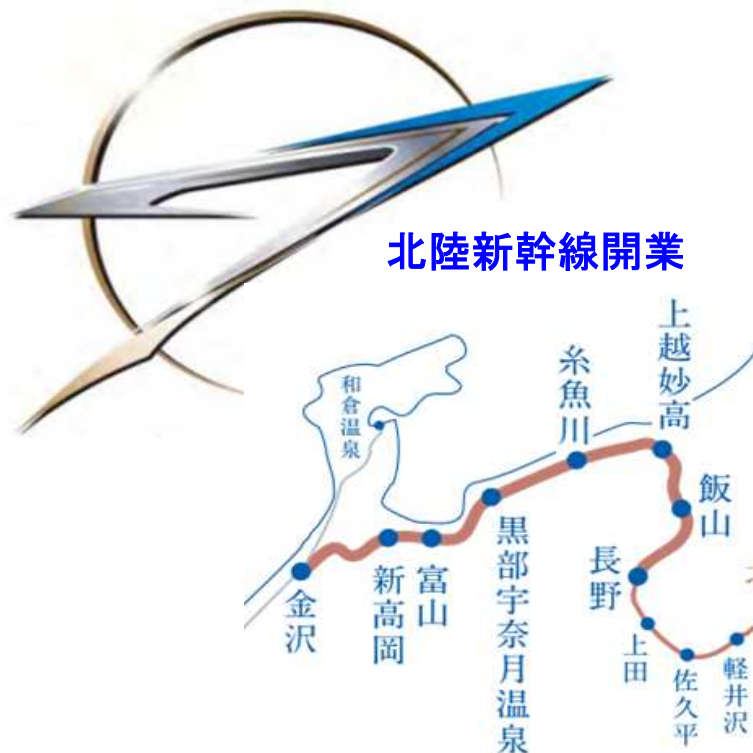
◎独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、東日本旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、長野県、新潟県、富山県、石川県

「沿線自治体との緊密なパートナーシップによる北陸新幹線金沢開業」

(選考理由)

北陸新幹線金沢開業は、沿線地域の半世紀に渡る悲願を叶えるとともに、広いエリアでの交流を生み出し、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、沿線自治体、ＪＲ東日本、ＪＲ西日本の総合力を引き出すトリガーとなりました。

本事業は、沿線自治体と鉄道事業者の緊密なパートナーシップにより、地域の個性に富んだ施設の整備と、地元力に溢れたソフト施策を顕著に充実させました。また、駅や都市の特徴・個性を生かした北陸新幹線沿線としての魅力をもとに、広域エリアによる新たな観光ルートの形成など、多くのインパクトも生み出しています。今後沿線の回遊性をより高めるため、地元の方々と鉄道事業者の連携をさらに強め、沿線としての魅力を北陸新幹線が繋いでいくという強い意思に敬意を表し、ここに第14回日本鉄道大賞を授与します。





【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「被爆と復興の記憶」 特別賞】

◎株式会社中国放送、広島電鉄株式会社

「被爆電車特別運行プロジェクト」

(選考理由)

あの記憶をいかに後世に伝えるか。

中国放送と広島電鉄は、被爆しながらも平成18年まで現役として走り続けた「被爆電車653号」を復活させるプロジェクトを進め、この夏23日間、特別運行しました。

70年前、広島の路面電車は電鉄社員らの努力によって、被爆からわずか3日後、一部の路線で運行を再開しました。すべてが失われたかのような市内を走るその姿は、人々をどれだけ勇気づけたことでしょうか。

プロジェクトでは、被爆電車の塗装を当時の色に再現するとともに、車内では原爆投下の事実に向き合い、戦後の広島の様子を紹介する映像を流しました。終戦から70年。戦争の記憶が薄れつつあるとされる中、鉄道を通じて原爆の恐ろしさと戦後日本の復興・発展に力を尽くした人たちに思いを致し、平和の尊さを心に刻む取り組みとして高く評価し、ここに特別賞を授与します。





## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞 「高度な安定輸送実現」 特別賞】

### ◎京浜急行電鉄株式会社

#### 「わが国最高水準の安定輸送の実現」

(選考理由)

わが国の鉄道は、高いサービス水準のみならず、安全性や正確性など様々な点で国際的に非常に高い評価を得ています。その中にあっても、京浜急行電鉄は、極めて利便性の高い高頻度・高速運転や相互直通サービス、そして高い安全性を確保しつつ、列車の遅延を最小限に抑制したわが国で最高水準の安定輸送を着実に提供し社会に大きく貢献してきました。これは、同社が線路配線や信号などの地上施設、運行管理システムなどの設備の改良、先頭車両の動力車化といった、ハード面の改善と工夫を長期にわたって営々と積み重ねてきたことに加え、高度なプロフェッショナリズムへのゆるぎない信念に基づいた「人間優位」の運行管理思想を社内の隅々まで徹底してきた、同社の長年の努力の賜物であります。ここに深く敬意を表し「高度な安定輸送実現・特別賞」を授与します。



【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

「ＳＬを活用した観光鉄道の持続的チャレンジ」特別賞】

◎大井川鐵道株式会社

「蒸気機関車「トーマス」でＳＬの新たな魅力を発信」

(選考理由)

日本のＳＬ動態保存運転の先駆けである大井川鐵道は、約４０年間にわたってほぼ毎日、ＳＬ運行を継続しています。「保存鐵道は技術と文化の継承」との考えと熱意が受け継がれ、運転や車両メンテナンス、乗客サービスなど様々な努力を重ねて、観光鐵道モデルを構築してきました。乗客の世代交代や減少が進む中で昨年開始された、車両を「きかんしゃトーマス」のキャラクターに変貌させ、新たな魅力を発信する取り組みは、ＳＬ体験のない世代にも大きな反響を呼び、地域にも経済効果をもたらしています。今後もＳＬを活かした観光鐵道として持続し、鐵道を核として、地域の活性化や観光振興を牽引するチャレンジを期待して、本件に特別賞を授与します。



© 2015 Gullane (Thomas) Limited.

平成28年10月7日  
鉄道局総務課

## 第15回「日本鉄道賞」の受賞者の決定について

### 【日本鉄道大賞】

○西日本旅客鉄道株式会社 「『生きている』鉄道文化の長期保存と魅力ある展示」

### 【特別賞】

○近畿日本鉄道株式会社 「携帯型放送装置による車内放送の多言語対応  
～すべてのお客様に安心してご利用いただくために～」

○仙台市交通局 「仙台市地下鉄東西線 自然と調和し伊達の歴史を未来へ  
つなぐ 市民協働で創った杜の都の新しい地下鉄」

「日本鉄道賞」は、「鉄道の日」創設の趣旨である鉄道に対する国民の理解と関心を深め、国民の強力な支持を得るとともに、鉄道の一層の発展を期することを目的としており、鉄道に関する優れた取組に対して表彰するものです。

### 【選考の方法】

日本鉄道賞表彰選考委員会において、各応募書類（計25件）の評価により、ヒアリング対象案件（計9件）をスクリーニング。応募者よりヒアリングを行い、改めて各委員が評価し、さらに委員間で議論の上、日本鉄道大賞及び特別賞を選考。選考理由については別紙をご参照下さい。

なお、受賞者の表彰式は、10月14日（金）の第23回「鉄道の日」祝賀会（於：セルリアンタワー東急ホテル（渋谷））において行う予定です。

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会委員】（50音順 敬称略）

安部 順一（読売新聞東京本社執行役員広告局長）

委員長 家田 仁（政策研究大学院大学教授）

奥田 哲也（国土交通省鉄道局長、「鉄道の日」実行委員会副会長）

木場 弘子（キャスター・千葉大学客員教授）

須田 義大（東京大学生産技術研究所教授）

茶木 環（ライター）

中村 幸司（日本放送協会解説委員）

浪瀬 佳子（交通まちづくりの広場～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～運営委員）

連絡先：国土交通省鉄道局総務課 尾崎、鈴木、山崎

代 表：03-5253-8111（内線：40624、40633）

直 通：03-5253-8542 FAX：03-5253-1633



(別紙)

## 【日本鉄道大賞】

### ◎西日本旅客鉄道株式会社

#### 「『生きている』鉄道文化の長期保存と魅力ある展示」

(選考理由)

京都鉄道博物館は、産業史的に価値ある多数のSLを保有し、うち8両が動態保存され、園内を含めて運行に供されており、SL動態保存の伝統と技術力を40年以上にわたって営々と継承してきた功績は極めて大きいものです。また、扇形車庫と転車台、1996年に移設・復元された山陰本線旧二条駅舎など、歴史的文化財として価値の極めて高い施設が保存されております。

さらに、SLの動態保存と運行だけでなく、まるで鉄道模型のジオラマのようにスカイテラスから広々と眺める在来線・新幹線の列車風景、現役の鉄道社員による来館者への解説活動、博物館がSLの検査・修繕を行う現業機関である梅小路運転区と連携して実作業を見学することができます。京都鉄道博物館は、まさにアクティブに「生きている」博物館としての特性を備えており、隣接する梅小路公園と一体となって、多数の人が訪れる魅力的な新しい空間形成に大きく寄与しております。以上より、第15回日本鉄道大賞を授与します。



扇形車庫【重要文化財】



鉄道おしごと体験の様子



本館1階で並ぶ車両たち



0系新幹線電車【鉄道記念物】



展示車両が変わる引込線



スカイテラスからの眺望



旧二条駅舎【京都市指定有形文化財】



SL動態保存・技術継承



SLスチーム号



## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞「安心インバウンド対応」特別賞】

### ◎近畿日本鉄道株式会社

#### 「携帯型放送装置による車内放送の多言語対応

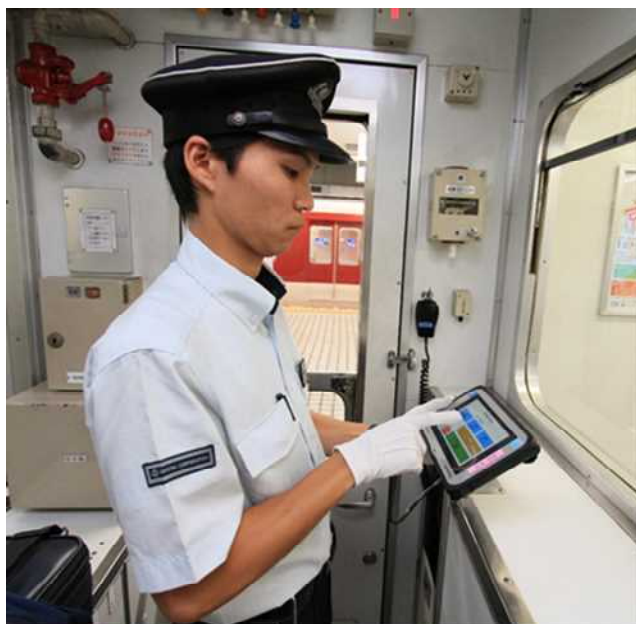
～すべてのお客様に安心してご利用いただくために～

#### （選考理由）

訪日外国人 2000 万人時代を迎えるなか、近畿日本鉄道は、業務用タブレット端末を利用して車内放送を日英中韓の 4 か国語で実施できるシステムを導入しました。このシステムは、行先や列車種別、停車駅、乗り換え案内のほか、観光・イベント案内などができ、さらに、遅延状況の説明や災害時の緊急避難放送にも応用できる見通しです。

また、車両工事が最小限で済むため、比較的低コストで短期間に導入することができ、今後、他の鉄道への広がりも期待できそうです。

インバウンド客に安心して鉄道を利用してもらえる環境を整える点で大変意義深く、ここに「安心インバウンド対応」特別賞を授与します。



車掌が携帯し、乗務時に車両の放送回路に接続して使用



日本語、英語に加えて中国語、韓国語を含めた4カ国語に対応

## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞「利用者とのバリアフリー」特別賞】

### ◎仙台市交通局

「仙台市地下鉄東西線 自然と調和し伊達の歴史を未来へつなぐ  
市民協働で創った杜の都の新しい地下鉄」

#### （選考理由）

鉄道事業者が大切にしなければならないこととは、何なのか。

仙台市交通局は、平成27年12月に開業した地下鉄東西線を建設するにあたって市民の意見を積極的に反映させる取り組みを行いました。

杜の都との調和を意識した橋梁、空や雲、鳥、風などをイメージした個性的な駅舎やコンコースは、沿線住民や高校生との意見交換会などを経て、デザインを収斂させたもので、魅力ある鉄道を利用者とともに築きあげました。また、障害者の意見を参考にして車両の手すりの形状を変更するなど、高齢者や障害者の要望を真摯に受け止め、取り入れたことは特に注目したい点であります。

こうした姿勢は、利用者と鉄道事業者の垣根を取り払うという意味においてもバリアフリーを実践したもので高く評価されます。今後もこれを貫き、より安全で利用しやすい鉄道の実現に力を尽くされるよう期待し、ここに特別賞を授与します。



伊達政宗公の兜の前立てをモチーフにした三日月を車両前面にデザイン

平成29年9月29日  
鉄道局総務課

## 第16回「日本鉄道賞」の受賞者が決定しました！

### 【日本鉄道大賞】

- 東京地下鉄株式会社 「ニッポンの地下鉄誕生より90年：そのたゆまぬ努力と成果」

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞】

- 株式会社タカラトミー「ブラレール×鉄道会社 オリジナル施策・博物館内子ども向け施設の展開」
- 五能線沿線連絡協議会・東日本旅客鉄道株式会社  
「沿線地域の魅力をつないで走る五能線『リゾートしらかみ』20年」

「日本鉄道賞」は、「鉄道の日」創設の趣旨である鉄道に対する国民の理解と関心を深め、国民の強力な支持を得るとともに、鉄道の一層の発展を期することを目的としており、鉄道に関する優れた取組に対して表彰するものです。

### 【選考の方法】

日本鉄道賞表彰選考委員会において、各応募書類（計32件）の評価により、ヒアリング対象案件（計10件）をスクリーニング。応募者よりヒアリングを行い、改めて各委員が評価し、さらに委員間で議論の上、日本鉄道大賞及び特別賞を選考。選考理由については別紙をご参照下さい。

なお、受賞者の表彰式は、10月16日（月）の第24回「鉄道の日」祝賀会（於：グランドプリンスホテル新高輪（品川））において行う予定です。

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会委員】（50音順 敬称略）

安部 順一（読売新聞東京本社執行役員広告局長）  
委員長 家田 仁（政策研究大学院大学教授）  
木場 弘子（キャスター・千葉大学客員教授）  
須田 義大（東京大学生産技術研究所教授）  
茶木 環（作家・エッセイスト）  
中村 幸司（日本放送協会解説委員）  
浪瀬 佳子（交通まちづくりの広場～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～運営委員）  
藤井 直樹（国土交通省鉄道局長、「鉄道の日」実行委員会副会長）

連絡先：鉄道局総務課 尾崎、鈴木、山崎  
代 表：03-5253-8111（内線：40624、40633）  
直 通：03-5253-8542 FAX：03-5253-1633



(別紙)

## 【日本鉄道大賞】

### ◎東京地下鉄株式会社

#### 「ニッポンの地下鉄誕生より90年：そのたゆまぬ努力と成果」

(選考理由)

今から90年前の1927年、東京・銀座線が完全な民間事業によって開業しました。その6年後1933年には、大阪・御堂筋線が大阪市の都市改造プロジェクトの一環として開業しました。この両者を先駆者とし、以来今日まで、わが国の7都市圏11都市に総延長約800kmの地下鉄網が整備され、全国で毎日約16,000本の列車が約1,600万人の人々を運ぶに至っています。各種技術はもとより、事業制度、駅及びその周辺の都市整備など様々な面で大きな進歩を遂げ、今や地下鉄は大都市にとって必要不可欠な、信頼される社会基盤となっています。これまで90年間における地下鉄関係者のたゆまぬ努力とその賜物である顕著な成果を祝し、東京地下鉄株式会社を代表として、ニッポンの地下鉄総体に対し日本鉄道大賞を授与するものであります。



開業 90 年を迎える銀座線の駅リニューアル（上野駅）



開業時の上野駅



ターンスタイル自動改札機



渋谷駅整列乗車の様子



東洋初の地下鉄を彷彿とさせる車体デザインを採用する一方で、  
数々の最新技術を取り入れた、快適で独創性の高い車両 1000 系



銀座線旧 1000 形



地下鉄の建設（3 連シールド工法）



## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞「世界中の大人も子どもも大好き」特別賞】

### ◎株式会社タカトミー

#### 「プラレール×鉄道会社 オリジナル施策・博物館内子ども向け施設の展開」

##### （選考理由）

子どもにも扱いやすく自由に路線が作れ、新車種も次々と発売されるなどその魅力は満載。また、鉄道事業者の乗務員訓練にも活用され、車両モデルが沿線への愛着を増すことに寄与するなど、鉄道事業者への影響も大きく、その可能性は深く広いものとなっています。特徴的な青いレールと多種類の車種は、大人も子どもも共に楽しめる鉄道玩具として1959年から販売されその歴史は長く、今年でレールの販売は10万キロ（地球2周半）を超えています。

小さなご褒美や、お誕生日等で大きいセットの購入など、少しずつ買い足せる価格帯の広さも購入者から喜ばれています。子どもたちだけで遊ぶもよし、複雑な立体交差路線を作るなど親子の交流の一助とするもよし、海外転勤のお供として赴任先へ持って行った親子もあり、鉄道に興味を持たす「英才教育グッズ」として、世界で活躍するプラレールに、「世界中の大人も子どもも大好き」特別賞を授与します。



© TOMY 「プラレール」は株式会社タカトミーの登録商標です。

## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

### 「沿線地域+鉄道でつくった広域観光」特別賞】

#### ◎五能線沿線連絡協議会・東日本旅客鉄道株式会社

#### 「沿線地域の魅力をつないで走る五能線『リゾートしらかみ』20年」

##### （選考理由）

白神山地の日本初の世界自然遺産認定や秋田新幹線開業を機に、観光列車「リゾートしらかみ」が誕生して今年で20年。赤字ローカル線で廃線の危機にもさらされたJR五能線の沿線では、立佞武多（五所川原市）が80年ぶりに復活し、観光体験をはじめとする観光メニューの開発や二次交通整備などに積極的に取り組み、また車内イベントとして津軽三味線や津軽弁で語る昔話、人形芝居などの地域の伝統文化を披露するなど、沿線各地域と鉄道事業者が協働で鉄道と地域を盛り上げ、活性化してきました。

鉄道を軸に、沿線各地域が地道に努力を積み重ね成果を出している広域観光のモデルとして、ここに「沿線地域+鉄道でつくった広域観光」特別賞を授与します。



### 知恵と工夫



千畳敷散策



能代工高選手と  
バスケット・シュートチャレンジ



運転士発意の絶景ポイントでの徐行



駅社員がデザイン  
リゾートしらかみ3兄弟



五所川原立佞武多  
奇跡の復活



ふれあい販売（車内販売）



津軽弁語り部



津軽三味線



金多豆蔵人形芝居

平成30年10月1日

鉄道局総務課

## 第17回「日本鉄道賞」の受賞者が決定しました！

### 【海外鉄道特別賞】

○阿里山森林鐵路

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞】

○小田急電鉄株式会社・東京都・世田谷区

「複々線で小田急沿線のまち・ひと・暮らしが変わる ～近郊区間の複々線化による抜本的な輸送改善と連続立体交差化による安全・快適なまちづくりの推進～」

○杉本聖奈&Nan-na 工房

「人と鉄道が織りなす世界を表現し、鉄道と利用者に活力を与える創作活動」

「日本鉄道賞」は、「鉄道の日」創設の趣旨である鉄道に対する国民の理解と関心を深め、国民の強力な支持を得るとともに、鉄道の一層の発展を期することを目的としており、鉄道に関する優れた取組に対して表彰するものです。

### 【選考の方法】

日本鉄道賞表彰選考委員会において、各応募書類（計21件）の評価により、ヒアリング対象案件（計10件）をスクリーニング。応募者よりヒアリングを行い、改めて各委員が評価・議論の上、選考を行い、受賞者が決定されました。また、本年度は新たに海外鉄道特別賞を設け、同様の選考を行い、受賞者が決定されました。選考理由については別紙をご参照下さい。

なお、受賞者の表彰式は、10月15日（月）の第25回「鉄道の日」祝賀会（於：ハイアットリージェンシー東京（新宿））において行う予定です。

### 【日本鉄道賞表彰選考委員会委員】（50音順 敬称略）

安部 順一（読売新聞東京本社取締役広告局長）

委員長 家田 仁（政策研究大学院大学教授）

蒲生 篤実（国土交通省鉄道局長、「鉄道の日」実行委員会副会長）

木場 弘子（キャスター・千葉大学客員教授）

須田 義大（東京大学生産技術研究所教授）

茶木 環（作家・エッセイスト）

中村 幸司（日本放送協会解説委員）

浪瀬 佳子（交通まちづくりの広場～人と環境にやさしい交通をめざす協議会～運営委員）

連絡先：鉄道局総務課 海老澤、鈴木、黒柿  
代 表：03-5253-8111（内線：40624、40633）  
直 通：03-5253-8542 FAX：03-5253-1633



(別紙)

## 【海外鉄道特別賞】

### ◎阿里山森林鐵路

(選考理由)

1914 年に台湾南部の森林資源開発のために建設された鉄道であり、その建設にあたっては、日本人技術者が貢献するとともに、現在では、日本の黒部峡谷鉄道及び大井川鉄道と姉妹鉄道となっているわが国にも関係の深い鉄道であります。

三重ループ線と 8 の字路線によって、2250m の大きな標高差を走行するとともに、急曲線・急勾配用のシェイ型ギア式 SL は、現在では世界でもたいへん珍しく、数両が動態保存され、今もイベントなどで使用されています。

1982 年の幹線道路開通後は、木材輸送の役割は道路に譲っているものの、歴史的鉄道技術資産を活かすことにより、世界から多数の観光客を集める観光列車として、現在も多くの台湾国民に愛顧されている阿里山森林鉄路に、「海外鉄道特別賞」を授与するものであります。





## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞】

### 「地域と協働した鉄道整備と沿線まちづくり」特別賞

◎小田急電鉄株式会社・東京都・世田谷区

「複々線で小田急沿線のまち・ひと・暮らしが変わる

～近郊区間の複々線化による抜本的な輸送改善と連続立体交差化による安全・快適なまちづくりの推進～」

(選考理由)

高度経済成長期の1964年、沿線人口の急激な増加による混雑緩和策として、小田急線の複々線化が都市計画決定され、その後、東京都の連続立体交差事業と一体となって50年以上にわたって事業が進められてきました。この事業は沿線のまちづくりと密接に関わることから、構造形式や密集市街地での工事の進め方のほか、まちの魅力向上などの様々な課題や時には難題を乗り越え、鉄道事業者と自治体、地域の関係者の連携・協力があってこそ実現できたプロジェクトと言えます。2018年3月に複々線化が完成し、鉄道の混雑緩和や輸送改善など鉄道の輸送環境だけでなく、踏切解消（39箇所）による道路の交通渋滞緩和など鉄道・道路の安全性・利便性も大きく向上しました。さらに、高架下スペースを有効活用した駅前広場、地下化による鉄道上部の緑道化、住宅地の整備を進めることにより、まちの賑わい創出やより快適なまちへの進化を果たしています。鉄道事業者と地域が連携・協力して鉄道の整備とまちづくりを効果的に進めた取組みに対し、「地域と協働した鉄道整備と沿線まちづくり」特別賞を授与します。



複々線化完成を祝うテープカット



複々線化と立体化が完成した区間



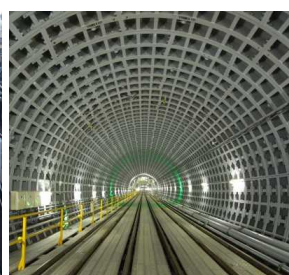
立体化による踏切解消



事業進捗にあわせた駅周辺の整備



密集市街地での大規模な工事



在来線直下での2層トンネル構築

## 【日本鉄道賞表彰選考委員会による特別賞

### 「アートで新たな鉄道の魅力創造」特別賞】

◎杉本聖奈 & Nan-na 工房

「人と鉄道が織りなす世界を表現し、鉄道と利用者に活力を与える創作活動」

(選考理由)

かつてより鉄道車両の魅力はデザインやアートの力によっても記録され、また広められてきました。写真、絵画、オブジェなど鉄道車両に関するアートは多くありますが、いずれも作品の作り手の個性を交えながら見る側に多くのものを伝え、今後こうした視覚的訴求は一層、波及すると考えられます。

日本各地の鉄道に乗車し、鉄道の絵を描き続けている杉本聖奈さんの作品は、車両とともに車内の乗客の姿をとらえ、それぞれの表情を丹念に描き込まれ、様々な人が乗車する様子からは鉄道に乗る楽しさが伝わってきます。「鉄道の表情は乗客がつくる」という一貫したコンセプトのもと、オリジナルの視点で制作された数々の作品と創作活動は多くの人々に鉄道の新たな魅力に気付かせ、伝えるものであり、ここに「アートで新たな鉄道の魅力創造」特別賞を授与いたします。

